

[話題提供]富士の介の成長に与える給餌回数の影響

[要約] 飽食給餌を1日2回と4回行った場合では富士の介の成長に明らかな差は確認されなかった。このため単純に給餌回数を増やすことは富士の介の成長改善にはつながらない。給餌回数に関わらず毎日摂餌できる上限まで給餌することが成長の面で重要である。

[担当] 山梨県水産技術センター・忍野支所・三浦正之

[分類] 技術・普及

[課題の要請元] 養殖業者、山梨県養殖漁業協同組合

[背景・ねらい]

富士の介（ニジマスメスとキングサーモン性転換オスを交配した全雌三倍体魚）にはメス親となるニジマスの養殖に適した性質が付与されておりオス親のキングサーモン（淡水養殖下で成長が非常に悪い）と比べて高成長である。しかし、ニジマスの成長には及ばないため富士の介の成長改善を目的として給餌回数が成長速度に与える影響を検討する。

[成果の内容・特徴]

1. 飽食給餌（満腹まで給餌）を1日2回した場合と4回した場合での成長を比較した。試験は令和2年度と3年度にそれぞれ同様の方法で実施した。
2. 令和3年度試験の2回給餌区で他の区と比較して成長が劣ったもののそれ以外では給餌回数にかかわらず成長は同様に、単純な給餌回数の増加は根本的な成長改善につながらない（図1及び3）。
3. 飼料効率は給餌回数に関わらず同様に飼料コストは給餌回数に影響をあまり受けない（図2及び4）。
4. 富士の介の1日あたりの摂餌量の上限は給餌回数の多少での変動が少なく、高成長のためには給餌回数よりも毎日上限まで丁寧に給餌することが重要。
5. 富士の介の確実な高成長誘導のためには親となるニジマスやキングサーモンの成長選抜が必要である。

[成果の活用上の留意点]

特になし

[期待される効果]

富士の介の養殖方法の確立のための基礎資料となる。

[具体的データ]

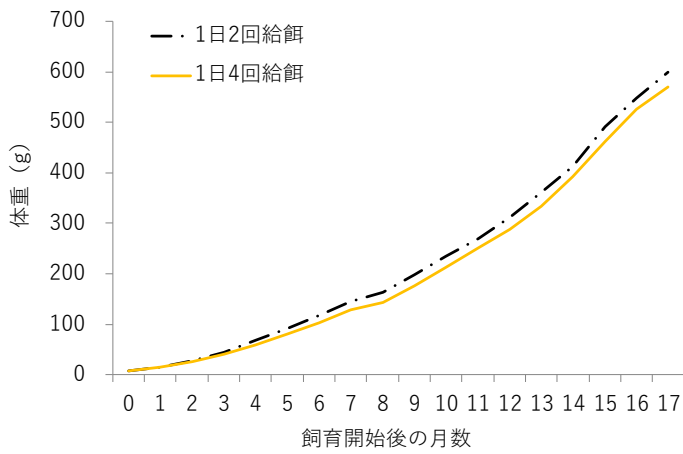


図1 給餌回数ごとの成長の違い (R2年度試験)

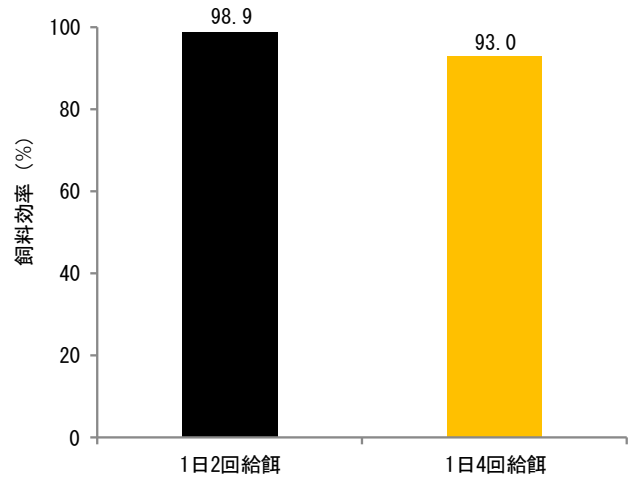


図2 給餌回数と飼料効率 (R2年度試験)

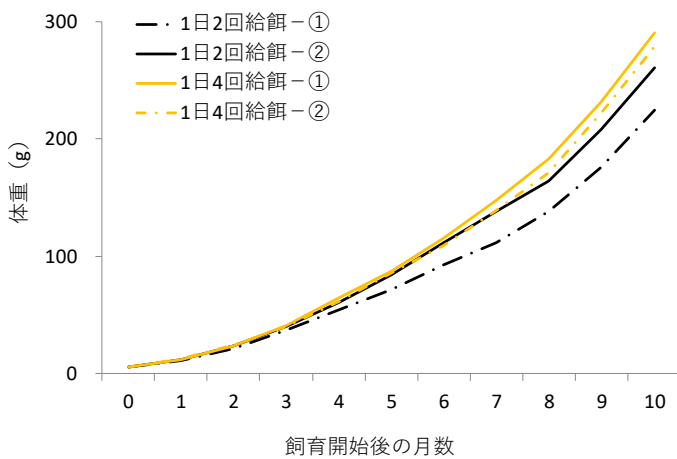


図3 給餌回数ごとの成長の違い (R3年度試験)

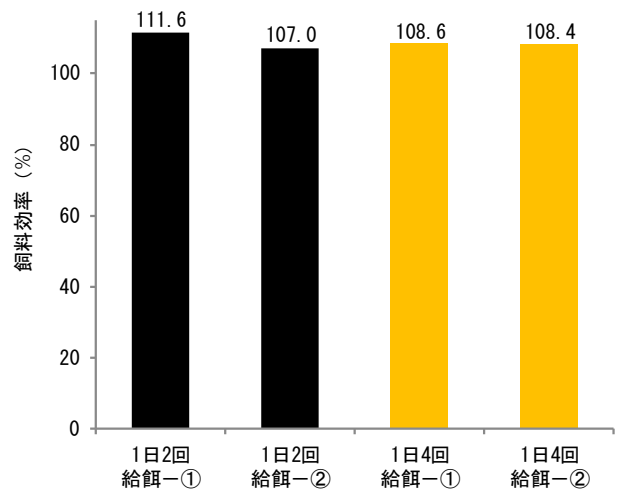


図4 給餌回数と飼料効率 (R3年度試験)

[その他]

研究課題名：バイテク魚の養殖特性に関する研究

予算区分：県単

研究期間：2020～2021年度

研究担当者：三浦正之、平塚 匡